

令和八年四月号

《第百六十号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

卯月の祭典・行事案内

【月次祭】 九時半

一日（水）

二十五日（土）

（己巳）

【昭和祭】 九時半

二十九日（水）



【昭和天皇御製】〈第一二四代〉

「秋芳洞にて」

洞穴もあかるくなれりここに住む

生物いかになりゆくらむか

「笠山にて」

秋ふかき海をへだててゆりやがいの

すめる見島をはるかに見さくる

（昭和三十八年）

【天長祭】 二月二十三日

国歌斉唱を龍笛の前奏に続いて斉唱し、祭典が開始されました。修祓・官司一拝・献饌、祝詞奏上と続き、参列者全員で今上陛下の御

製七首を奉唱しました。祭典終了後に、官司から次のような挨拶がありました。



だ失礼なことであり、このやうな半日マスメディアに欺されないやうにしなければなりません。』

『最近の週刊紙や書籍に愛子天皇なる語が見られるが、これは、現「皇室典範」に反するのみならず、万世一系の皇位継承の伝統を破壊するもので、秋篠宮皇嗣殿下や悠仁親王殿下に対して甚

【推薦図書】

『中国共産党が語れない』

日中近現代史

新潮新書

兼原信克・垂秀夫 著

千六十円＋税

「・・・近代以降の中国の歴史は、日本からの広範な影響抜きに語ることは考えられない。特に辛亥革命の主人公たちは、ほぼ全員が日本に滞在したり、日本で学んだりしており、辛亥革命の母体となった団体（中国同盟会）も東京で結成されているほどだ。（中略）しかし中国では、こうした日本からの広範な影響や交流の記憶は漂白され、自国中心主義のプロパガンダに置き換えら

れてしまった。・・・」

（はじめにより）



『日本を強くする十の原理』

竹田恒泰・門田隆将 著

扶桑社 千七百六十円

「・・・今の日本には困難な課題が山積しているが、こういう時こそ、有権者一人ひとりが祖国の状況を知り、未来に繋がる議論に耳を傾けて頂きたい。今や時短の時代なので、1分以内の動画しか見ず、まして活字など年間を通じてほとんど読まない人が大半を占めるようになった。だからこそ、神の本にじっくりと向き合うことは、価値を増しているのではないだろうか。本書が読者にとって、日本を見つめなおす機会になったら幸いである。・・・」（おわりから）

《目次》

プロローグ 日本を破壊したい勢力との戦い

第一章 皇位継承の正しい道筋

第二章 女性・女系天皇を推し進める不穏な勢力

第三章 子どもに危うい教育を押しつける

LGBT法

第四章 選択的夫婦別姓は家族を壊す
 第五章 移民の受け入れは必要ない
 第六章 「日中友好絶対主義」の危険
 第七章 日本は台湾と「連邦」を組もう
 第八章 アメリカとの「核シェアリング」
 第九章 日本人がもっとコメを食べたくなる
 施策
 エピローグ 「多産社会」を実現する衝撃的な現金支給

門田隆将★竹田恒泰
 トリプルリーダーに
 守ってほしい日本
日本を強くする10の原理
 「皇位継承、皇族の正しいあり方」「少子化問題の確実な解決法」
 「移民による侵略の打開策」「台湾と日本を中国から守る手段」など。
 未来を諦めず、貫き通す、大切なこと。
 保守本流のオピニオンリーダーが、「次代」へ伝える熱きメッセージ。
 ビジネス社



本居宣長 『直隗靈』を読む (十二)

そもそも、人の国を奪ひ取らむとはか
 るには、万づに心を砕き、身を苦しめ
 つつ、善きことの限りをして、諸人を
 なつけたる故に、聖人はまことに
 善人めきて聞こえ、またその作りおき
 つる道のさまも、うるはしく万づに足
 らひて、めでたくは見ゆめれども、まづ
 己からその道に背きて、君を滅ぼ
 し、国を奪へるものにしあれば、みな
 偽りにて、まことは善き人にあらず。

いともいとも悪しき人なりけり。もと
 よりしか穢悪き心もて作りて、人を
 欺く道なるけにや、後の人も、うはべ
 こそ尊み従ひがほにもてなすめれど、
 まことには一人も守り努むる人なけれ
 ば、国の輔けとなることもなく、其の
 名のみ広がりて、終に世に行はるるこ
 となくて、聖人の道は、ただ徒らに、
 人を誘ふ世々の儒者どももの、さへづり
 ぐさとぞなれりける。然るに、儒者の、
 ただ六経などいふ書をのみとらへて、
 彼の国をしも、道正しき国ぞと、言ひ
 ののしるは、いたく違へることなり。

(続く)

【現代語訳】

そもそも、他人の国を奪ひ取らうと計画
 することは、色々と腐心し、身体を苦しめ、
 善行の限りを尽くし、人々を手なづけるた
 めに、聖人は本当に善人のやうに聞こえ、
 また、その作成してあつた「道」の内容も
 整つてゐて、何かにつけて足りてをり、す
 ばらしく見えはするけども、何よりも先に
 自分からその「道」に背いて、主君を滅ぼ
 し、国を奪ひ取つたものであるのです、すべ
 て嘘であり、実は善人ではない。ひどく悪
 い人であつたのである。もともと、このや
 うに醜悪な心で作成して、人を欺く「道」
 であるためであらうか、後世の人もこのや
 うにただ表面では、尊んで従ふやうなふり
 をして振る舞ふやうであるが、本当のところ
 は、一人も努力して守る人がゐないので、
 国家の扶助となることもなく、その名称だ

けが広がって、結局世の中に採用されるこ
 とがなく、聖人の道はただ無駄に人の悪口
 を言ふ人々の儒学者連中のお喋りの種とな
 つてゐたのだつた。さうであるが、儒学者
 が単に六経などといふ書物だけを取りあげ
 て、外国を「道」が正しい国だと仰々しく
 言ひ立てるのはたいへん誤つてゐること
 である。

岩国護国神社春季例祭の案内

四月十一日(土) 十時より



岩国市民
 の守護神で
 もある三千
 三十三柱の
 英霊の御霊
 に、戦後八
 十年の平和
 への感謝と、
 今時の不穏
 な世界情勢
 の中、恒久
 平和の祈り
 を捧げませ
 んか。

【昭和祭の御案内】

四月二十九日(水) 九時半より

どなたでも自由に参列できます。
 今年は昭和百周年にあたります。「激動
 の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代
 を顧み、国の将来に思いをいたす日です。」